

## 脳梗塞片麻痺患者、 自宅復帰へむけての 歩行獲得と環境設定の再考

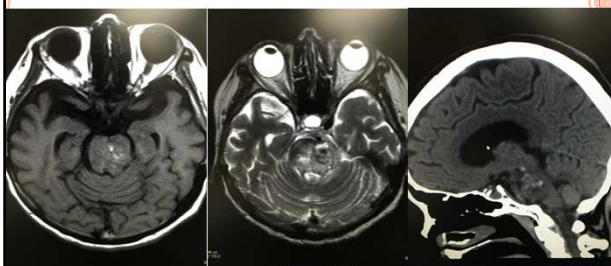
小金井太陽病院  
理学療法士 山本英利

### はじめに

今回脳幹梗塞により右片麻痺を呈した症例を担当する機会を得たので以下に報告いたします。

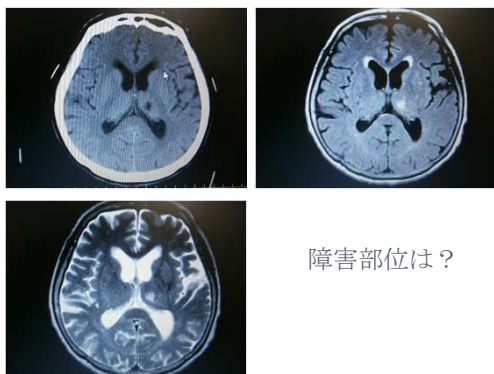
在宅復帰へ向け、環境設定や家族への介助方法の指導を行ったが、現在は有料老人施設に入所され、当院の訪問リハビリを週3回利用されています。

障害部位は？



### 症例紹介

- 氏名:A様 女性
- 年齢:79歳
- 診断名:脳幹梗塞(左橋・中脳・視床)
- 既往歴:子宮筋膜,異型狭心症,骨粗鬆症
- HOPE(初期)トイレへ行けるようになりたい(最終)家に帰りたい
- 病前ADL:家事動作全て自立。
- 趣味:旅行、登山へ出かける。
- 介護保険:要介護4



障害部位は？

### 現病歴

- X年Y月26日外出中四肢麻痺、意識障害あってA病院へ搬送。  
発症後3時間10分後にt-PA投与するも症状改善せず。右麻痺。構音障害が残存。この時のADLは車椅子在位保持可能、移乗は中等度介助レベル。
- X年Y月13日リハビリ目的にて当院へ入院。  
X年Y月23日回復期リハビリへ転棟。

## 病前ADL

病前ADL: 家事動作全て自立

趣味: 旅行、スキー、登山へ出かける

寝室は2階

kyeparson: 夫



## 理学療法評価(最終)

- Br.s: 上肢Ⅲ 手指Ⅳ 下肢Ⅳ
- Sensory: 表在・深部 正常
- 筋緊張: 膝蓋腱反射軽度(+)  
アキレス腱反射(+)
- ROM: 著名な制限なし。
- MMT: 左上下肢4 体幹3
- MMSE: 27/30(見当識・遅延再生で減点)
- TMT: partA3分43秒 partB6分16秒

## 理学療法評価(初期)

- Br.s: 上肢Ⅱ 手指Ⅲ 下肢Ⅲ
- Sensory: 表在・深部 正常
- 筋緊張: 膝蓋腱反射軽度(++)  
アキレス腱反射(-)
- ROM: 著名な制限なし。
- MMT: 左上下肢4 体幹2
- MMSE: 27/30(見当識・遅延再生で減点)
- TMT: partA 3分08秒 partB 6分40秒
- 全体像: コミュニケーション良好、笑顔で趣味の話がされる。

## 退院時

退院先を検討(自宅か施設か)

退院先が退院の一月前まで決定しなかったため、訓練は退院先を二か所想定し、それぞれに必要な訓練を実施した。

自宅の場合にそなえて

- 屋内歩行時近位見守りの位置、
- 段差昇り・降り、跨ぎ動作の指導と家族の介助方法指導

施設の場合にそなえて

- SHB着用し、4点杖見守りで屋内歩行を提案

## 治療経過 4ヶ月

期間	訓練内容	ADL変更
1M	起き上がり・立ち上がり訓練 PT・OTでの靴の履き方を統一	日中トイレまでの移動車椅子送迎
1M2W	SHB着用して平行棒内 歩行 右立脚期に骨盤後退し、反張膝が生じる	
2M	SHB着用・4点杖使用しリハビリ室30m歩行	
3M	段差昇降練習(10cm台)	日中トイレ見守りへADL変更
4M	自室〜リハビリ室まで歩行距離を延長 装具の着脱は自立	トイレ動作夫の見守り

## 環境設定

- ・ 転びやすい  
玄関マットを撤去



- ・ 2階の寝室を1階へ変更、
- ・ L字バー付きのベッドを居間に設置

## 現状

- 現在は有料老人施設に入所され、  
当院の訪問リハビリを週3回利用

歩行は旦那様の見守りのもと、SHB着用  
4点杖を使用し歩行

- 来月からは月一回、自宅でのリハビリを開始



## グループ課題

- 自宅退院へむけてどのような  
環境設定を行うべきであったか

